

# 和歌山南ロータリークラブ週報



WAKAYAMA SOUTH R.C. CLUB WEEKLY

2026年 2月 第2週

2025～2026年度  
国際ロータリー会長メッセージ

事務所 〒640-8215 和歌山市橋丁23  
N-4ビル 2F  
TEL(073)423-8822 FAX(073)423-8821

<http://www.wminamirc.jp/>

例会場 〒640-8156 和歌山市七番丁26-1  
ダイワロイネットホテル和歌山 TEL(073)435-0055

例会日 毎週金曜日 12時30分～13時30分

2024-25年度 RI会長 フランチェスコ・アレツォ

ガバナー	北野治義	幹事	戸井洋木
会長	前嶋ヒロム	会長エレクト	石橋英二
直前会長	岩本 研		
副会長	北畑博史		
会報委員長	江口暢洋	副委員長	広瀬晋作
委員	石橋英二	林 勇伺	野口雅之
	越部早絵	大工博史	井口善隆

「UNITE FOR GOOD」

よいことのために  
手を取りあおう



## 本日のプログラム

2026年2月13日(金) No.3031

第3088回 例会

- ソング「4つのテスト」
- 卓話「南葵音楽文庫100年記念コンサートのご報告」

宮下 直子 会員

## 次週のプログラム

2月18日(水)

- ソング「奉仕の理想」
- 和歌山東南ロータリークラブとの合同例会  
アバローム紀の国

18:30～

## 会長報告

皆さんこんにちは 一ボンジョルノー  
寒い日が続いていますが、寒い中での スポーツ そうです ミラノ冬季オリンピックが いよいよスタートします。世界の人々と手を取り合うロータリークラブですが、オリンピックの時は、どうしても日本選手の活躍を期待してしまいますよね。仕方ないんですが、一でも頑張っている姿を見ると、世界の選手たちに拍手を送ってしまいますよね。スポーツは素晴らしいですね♪ 国を超えて 拍手する まるでロータリー精神ですね♪♪  
皆さん ミラノ冬季オリンピックを楽しんでください。



## ゲスト紹介



和田親睦活動委員

## 出席報告



越部出席委員

## 幹事報告

第3回IDMで、当クラブで取り組むべき事業や見直すべき事業について議論をして頂くことになっております。これは次年度以降の事業について、今から議論を進めておきたいという趣旨に基づくものです。議論の前提として、事業の現状についてご理解いただく必要があると考えますが、それに関しては「クラブ概況」の予算頁をぜひご参照ください。



## 米山奨学生



米山奨学生蔡宜庭さんが本日の例会に出席しました。越部カウンセラーより紹介があり 蔡宜庭さんスピーチ後に前嶋会長より米山奨学金2月分をお渡ししました。



前週の報告 2026年2月6日(金)  
出席報告 会員76名(出席規定適用免除会員7名)  
出席50名 ホームクラブ出席者65. 79%

四つのテスト (言行はこれに照らしてから) I 真実かどうか II みんなに公平か III 好意と友情を深めるか IV みんなのためになるかどうか

## 長寿祝



今月、吉村利規会員が喜寿を迎えられましたので前嶋会長よりお祝いの記念品をお渡し致します。



## 連続出席表彰



《石橋英二会員6年》  
前嶋会長より石橋会員に記念品をお渡ししました。



## 2月 お誕生祝



## ニコニコ箱



本人誕生日・・・大林君・野口君・宮本(保)君・吉村君  
 パートナー誕生日・・・岩橋君・岡崎君・雑賀君・前窪君  
 事業所創立・・・植田君・大山君・宮本(保)君・和田君  
 入会記念日・・・北畑君・林(芳)君  
 皆出席表彰・・・石橋君  
 吉村君・・・喜寿を向かえました。  
 前田(耕)君・・・連続51年例会出席で前窪パストガバナー  
 とともに現北野ガバナーから錫製タンブラーを贈呈された。  
 前窪君・・・小橋様アリガトウ御座居マス！！  
 前嶋君・・・小橋様本日はよろしくお願ひ申し上げます。  
 宮下君・・・2/21(土)南葵(なんき)コンサートのチラシを  
 にこにこ掲示板にはらせて頂きました。  
 本年もご協力の程宜しくお願ひ致します。  
 植田君・・・海堀先生ごちそうさまでした。

計 ¥109,000 - 累計 ¥1,630,736 -

## 卓話

### 「秀吉・秀長と雑賀衆」

和歌山市立博物館  
学芸員

小橋 勇介 様



戦国時代の紀の川河口部一帯は「雑賀(さいか)」と呼ばれていた。雑賀を含む紀伊国は、高野山や根来寺、粉河寺など宗教勢力の力が強大であったため、ほかの地域のように戦国大名となる武家勢力が生まれなかった。雑賀においては、村を治める規模の土豪が寄り集まって、「惣(そう)国(こく)」と呼ばれる共同で統治するための組織を作り上げていた。雑賀惣国の構成員は、ほかの地域の人々から見ると、雑賀の集団＝衆ということで、雑賀衆と呼ばれることになる。

豊臣(羽柴)秀吉・秀長兄弟と雑賀衆との関係については、彼らが織田信長の家臣であった時に行われた、天正五年(一五七七)二月の紀州攻めの際に初めて雑賀衆と接触した。秀吉は和泉国信達宿(泉南市)から雄ノ峠を越えて進攻する山手軍に所属していた。秀吉の副将である秀長は、おそらく秀吉に同行していたと考えられる。その後、秀吉は西国攻略の総大将として、播磨国を拠点に活動することとなる。雑賀衆のうち熱心な本願寺の門徒は、信長と敵対する門主・頭如の命を受けて、摂津や播磨に出兵し秀吉の軍勢と戦っている。

天正一〇年(一五八二)、本能寺の変によって信長が自刃する。信長の天下統一事業を継承した秀吉は、天正一三年(一五八五)三月から四月にかけて、敵対勢力が残る紀州に進攻している。根来寺、粉河寺を焼き討ちにし、抵抗勢力が立て籠もる太田城を水攻めにしている。四月には雑賀を平定し、秀吉の勢力下においている。その際、秀吉は農民百姓に対して武器所持を禁ずる刀狩令を、全国に先駆けて雑賀で発布している。弟の秀長は紀州攻めにおいて占領した寺社や村落に対して、放火や乱暴狼藉など不法行為を禁止する命令書(禁制)を発給し、治安維持に務めた。新たな紀州の支配拠点として、虎伏山に和歌山城が築かれ、城主として羽柴秀長が入場する。

雑賀を治めた土豪たちの共同体「惣国」は、ここに消滅したのである。



## 親睦活動委員会

